

5月の おすすめ本コーナー

『香川が舞台のおすすめ本コーナー』

今月からは、テーマごとにおすすめの本のコーナーをつくることにしました♪

テーマ展示の1回目は、「香川が舞台の本」です。

『八日目の蝉』 角田光代

2011年に映画化もされた、衝撃のサスペンス巨編。

愛人の子どもを誘拐した「女」の逃走劇と、誘拐犯を母と信じていた「娘」の人生が、リズムカルな文章で描かれています。

そして「小豆島」を重要なキーワードとして展開される物語は、「小豆島」の良さを再考する手助けもしてくれます。

『二十四の瞳』 壺井 栄

香川が舞台の本の中で、最も有名な本の一つではないでしょうか。昔の言葉で書かれているので、少し読みづらいかもかもしれませんが、戦時中の暮らしや、戦争の不毛さなどきっと学びが多いはず。香川県民として、ぜひ一度読んでみてほしい一冊です。



【掲示図書】

角田光代（2007）『八日目の蝉』中央公論新社。

壺井栄（1973）『二十四の瞳』金の星社。

芦原すなお（1992）『青春デンデケデケデケ』河出書房新社。

芦原すなお（2007）『海辺の博覧会』ポプラ社。

『小さな〇〇の素敵なお話コーナー』

今回のテーマ展示は小さな王様や小さな動物たちなど、小さな主人公のお話を集めました。彼らから見える世界は、私たちとは少し違うけれど、とても素敵なお話でした。

『ちいさなちいさな王様』 アクセル・ハッケ

ある日部屋にあらわれた人差し指サイズの王様は、年をとるにつれて体が小さくなり、少しずついろいろなことを忘れてしまいます。でも、「子どものような想像の世界がひろがっていくことが楽しみだ」と、いつも希望にあふれ、楽しそうな王様。そんな王様と、人生を楽しむコツについて考えてみませんか？

『星の王子様』 サンテグジュペリ

「タイトルは聞いたことがあるけど、読んだことはない」なんて人もいるのではないのでしょうか？

砂漠で遭難中に出会った星の王子様との会話は、大人になる過程で忘れてしまう「大切なこと」について考えさせられます。

大人へと成長中のみなさんにこそ、ぜひ読んで欲しい一冊です。



[掲示図書]

アクセル・ハッケ（1996）『ちいさなちいさな王様』講談社。

サンテグジュペリ（2005）『星の王子様』集英社。

ムラマツエリコ、なかがわみどり（2000）『おかあさんとあたし。』大和書房。

ムラマツエリコ、なかがわみどり（2004）『おかあさんとあたし。2』大和書房。

さかざきはる（2002）『ワンワンワン 捨て犬たちの小さなおはなし』WAVE出版。

藤本雅秋、坂崎千春（2003）『うさこちゃん』WAVE出版。